

## IV 市民意識調査に基づく「指標の現状（値）」

---

---

---



## IV 市民意識調査に基づく「指標の現状（値）」

### 1. 指標の現状（値）

#### 第1節 連携型地域社会の形成

##### 第1項 市民と行政の協働を推進します

めざしたい将来像：

「市民の自立」「市民や事業者などと行政の対等な関係」をめざす協働のまちづくりを推進し、安全・安心な豊かで、活力のある郷土愛に満ち、市民みんなが誇りに思える”ふるさとまつど”を実現します。そのため、支所など地域拠点の機能を高め、市民同士、市民と行政、行政組織同士などの連携を進めます。また、地域活動（町会・自治会活動、地区社会福祉協議会の活動）、NPO活動、ボランティア活動のそれぞれの活性化を図ります。

《指標》

市民活動（地域活動、NPO活動、ボランティア活動など）に参加している人の割合

#### (1) 指標の説明

市民が、企業、NPO法人、ボランティア団体、町会、自治会などの一員として社会に貢献するという意志をもち、積極的に地域活動に参加している状況を把握するため、市民活動に参加している人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により地域を限定すると共に、積極性を加味し、直接的に聞いています。「社会・行動」

Q6 あなたは日頃、市内で地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に、積極的に参加していますか。次の中で、参加しているものがあれば、全てに○をつけてください。

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 町会・自治会           | 6 企業による奉仕活動       |
| 2 ボランティア団体         | 7 有志・仲間との奉仕活動     |
| 3 PTA              | 8 その他（ ）          |
| 4 NPO法人（特定非営利活動法人） | 9 積極的に参加しているものはない |
| 5 子ども会育成会          |                   |

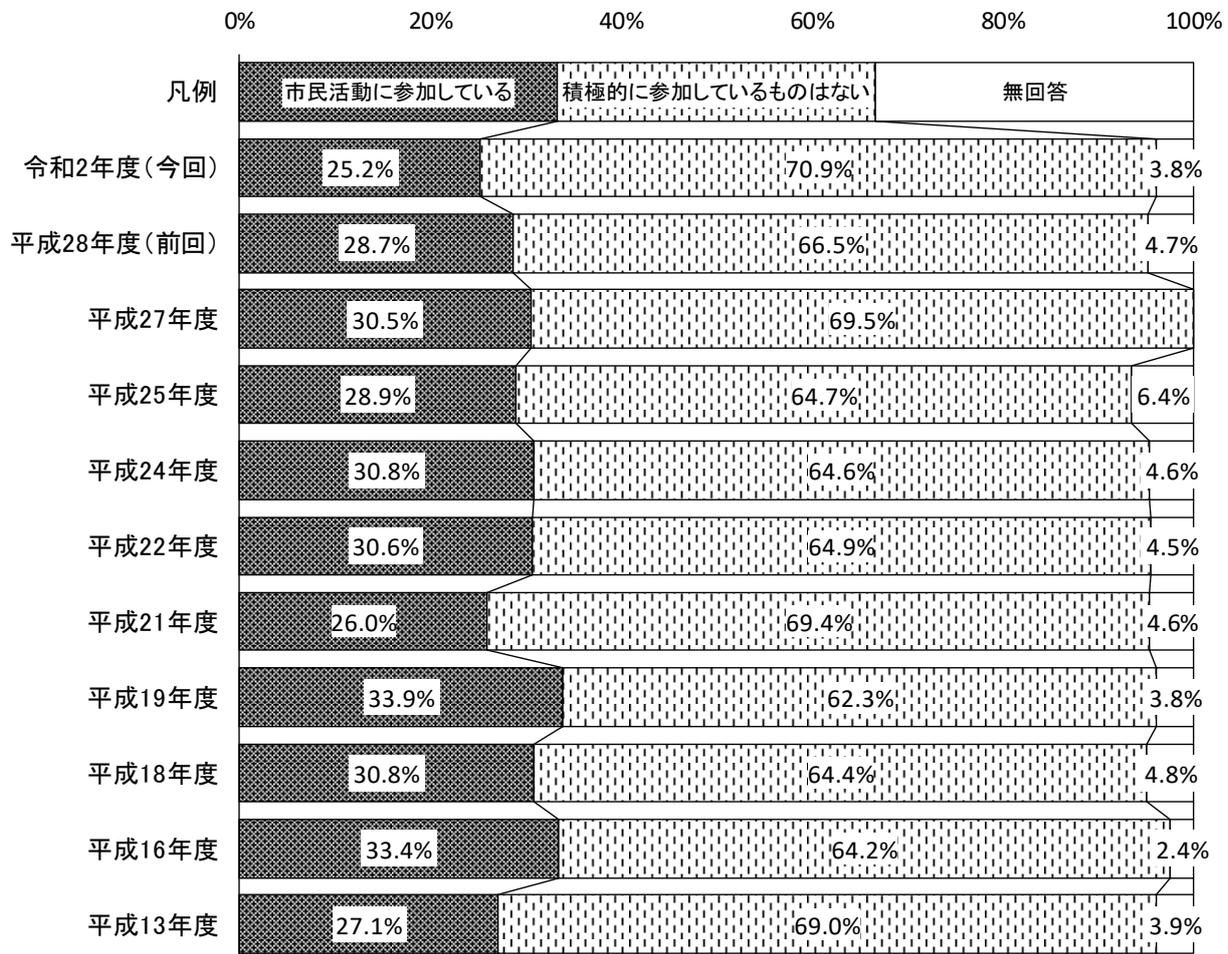
#### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
市民活動に参加 している	27.1%	33.4%	30.8%	33.9%	26.0%	30.6%	30.8%	28.9%	30.5%	28.7%	25.2%

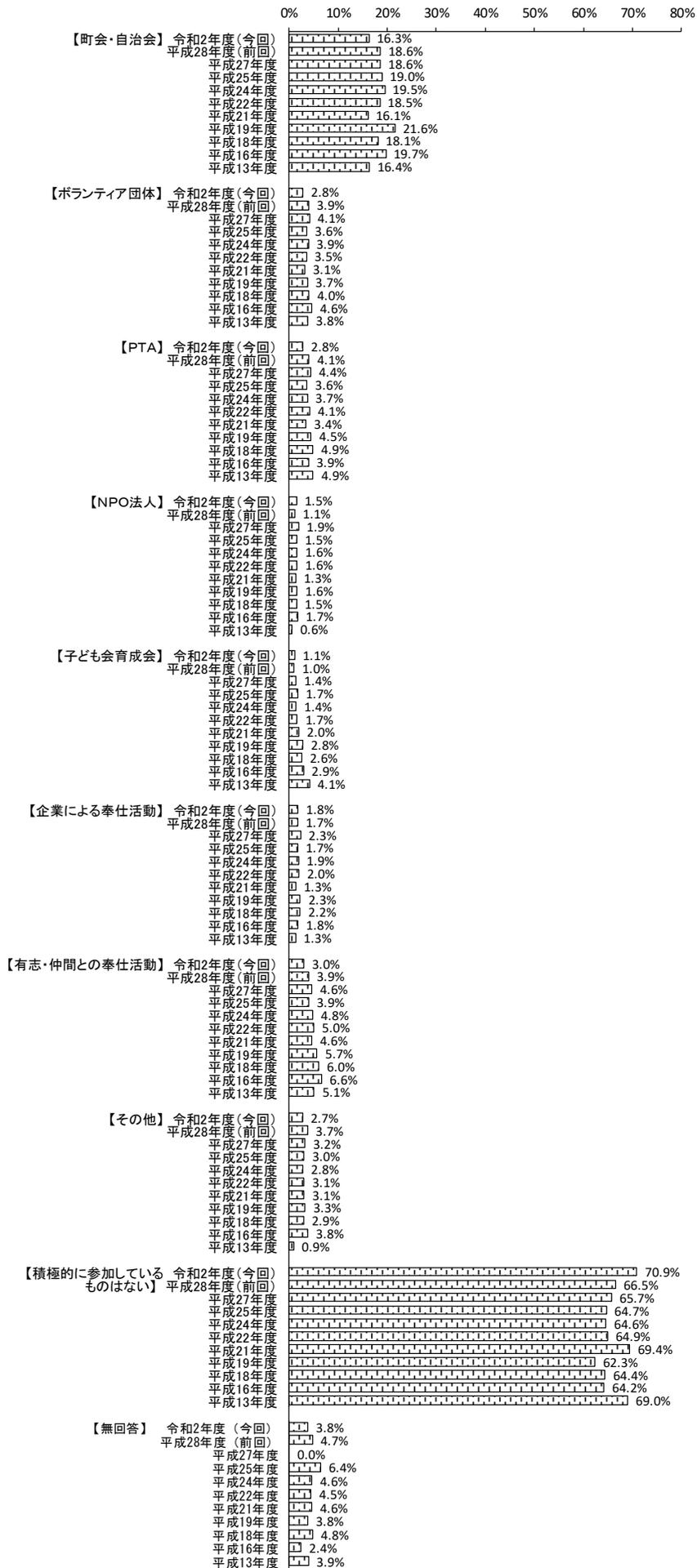
#### (4) 指標の分析

##### ☆市民活動への参加者は2割半ばとなっています

市内で地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に、積極的に「参加している」(25.2%)と答えた方は2割台となっており、平成28年度調査と比べて3.5ポイント減少しています。一方、「積極的に参加しているものはない」(70.9%)は約7割となっており、平成13年度調査以降最も高い割合となっています。

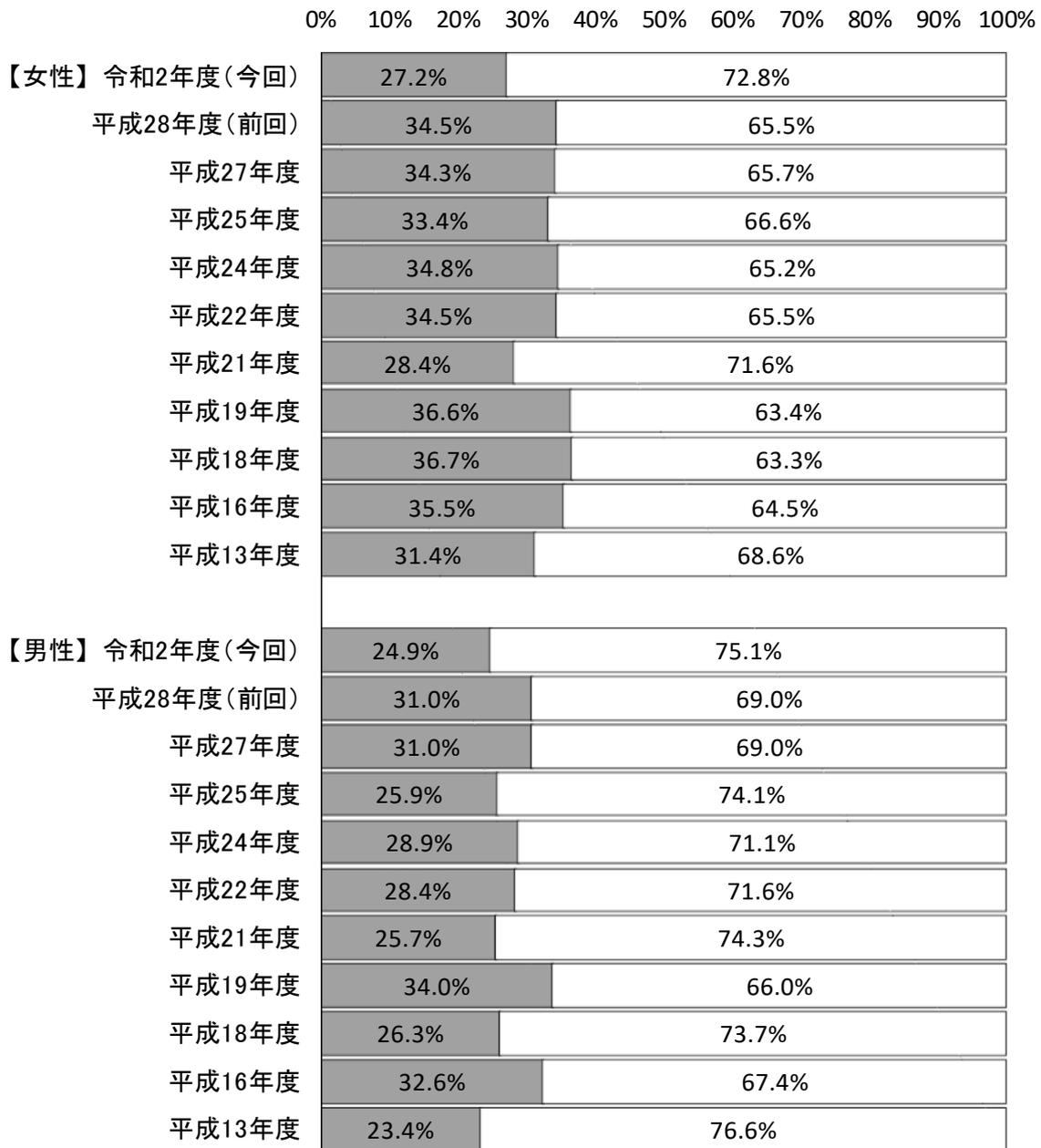


参加している活動の内容をみると、「町会・自治会」(16.3%)が最も高くなっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。



## <市民活動×性別>

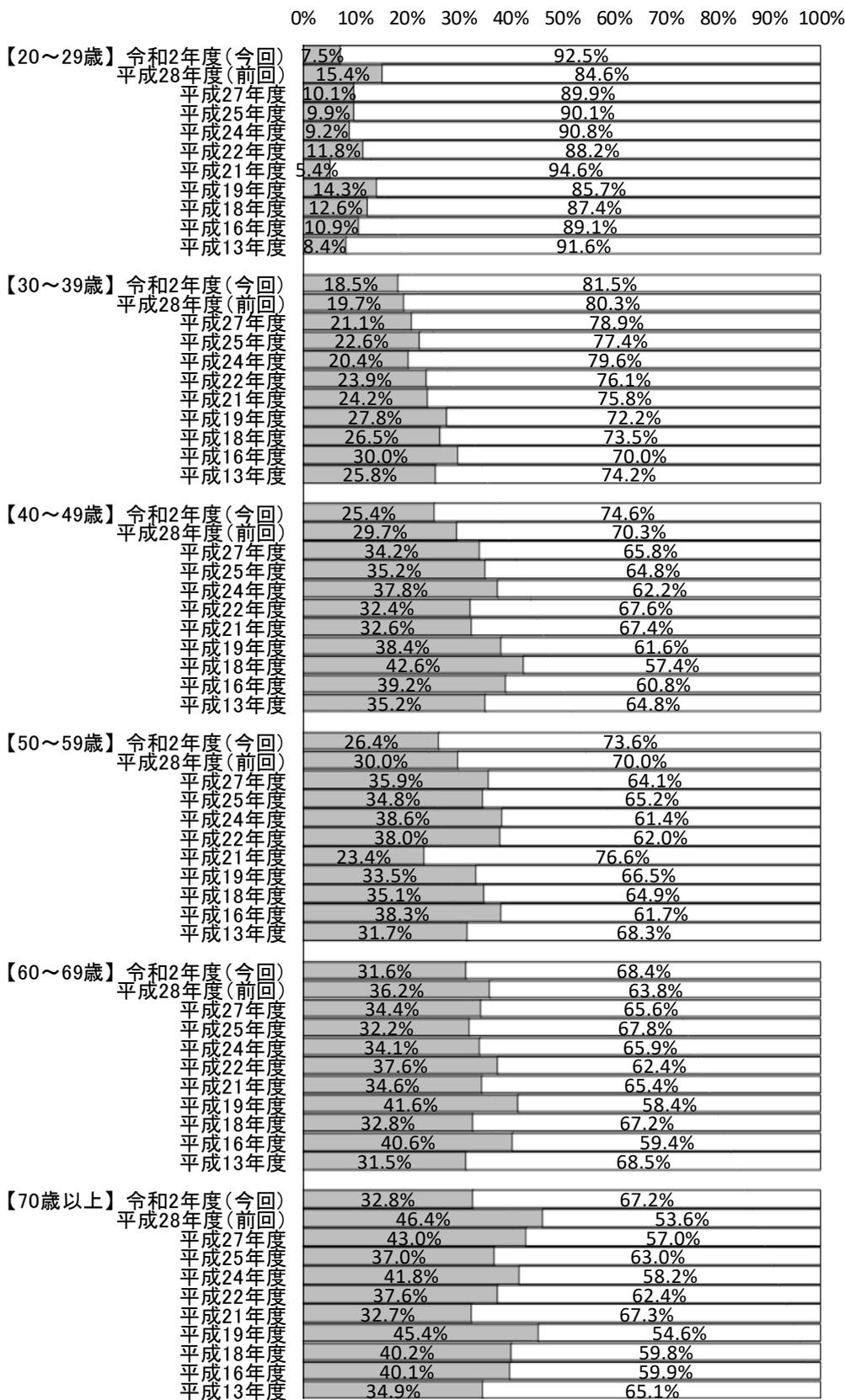
性別でみると、「市民活動に参加している」は“女性”（27.2%）が“男性”（24.9%）より高くなっており、平成28年度調査と比べて、女性では7.3ポイント、男性では6.1ポイント、それぞれ減少しています。



■「市民活動に参加している」の比率 □「積極的に参加しているものはない」の比率

<市民活動×年齢別>

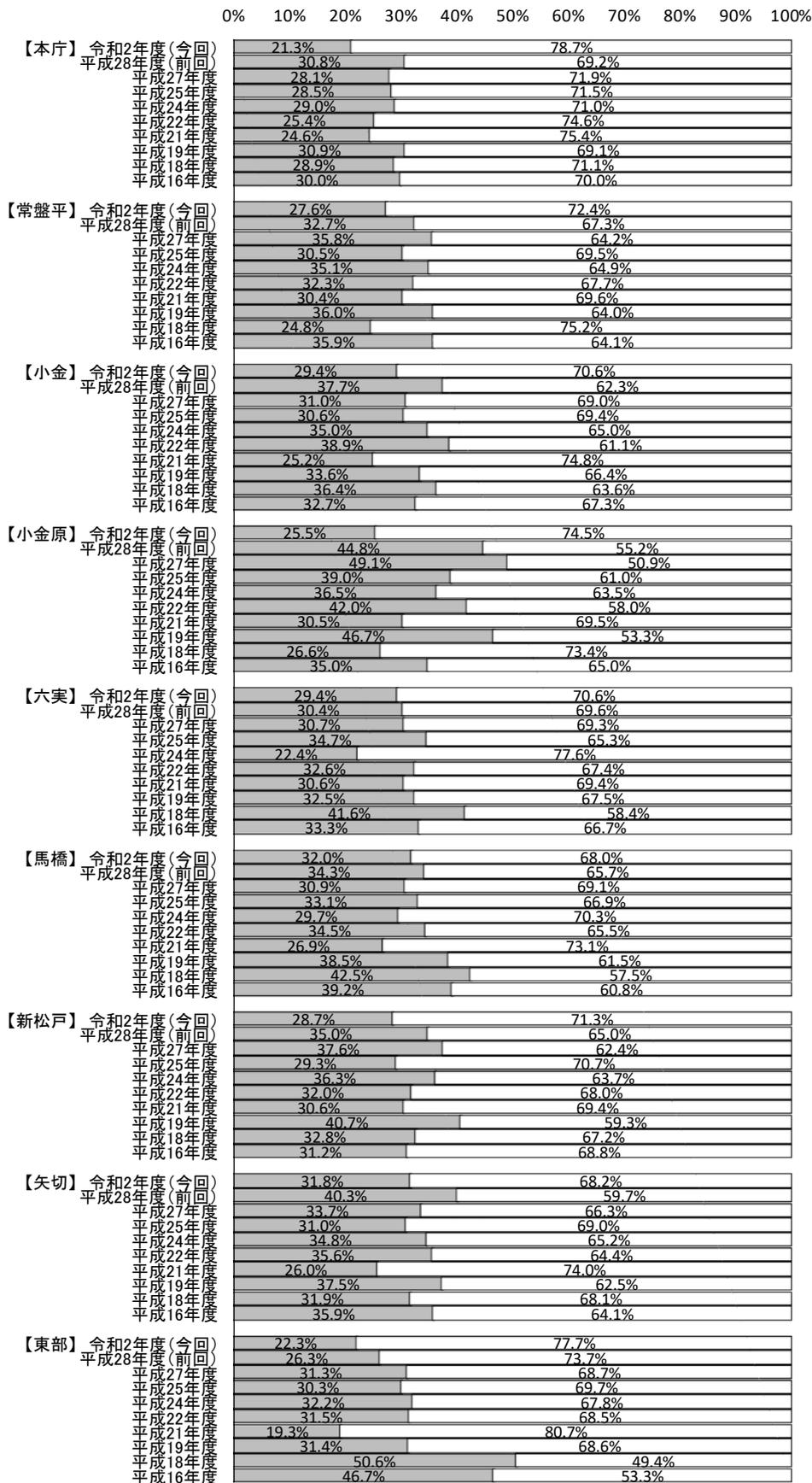
年齢別で見ると、「市民活動に参加している」は年代が上がるにつれて割合が高くなっており、“70 歳以上” (32.8%) で最も高くなっています。また、全ての年代で「市民活動に参加している」は平成28年度調査と比べて減少しています。



■「市民活動に参加している」の比率 □「積極的に参加しているものはない」の比率

<市民活動×居住地区別>

居住地区別でみると、「市民活動に参加している」は“馬橋”（32.0%）で最も高く、次いで“矢切”（31.8%）となっています。また、全ての居住地区で「市民活動に参加している」は平成28年度調査と比べて減少しています。

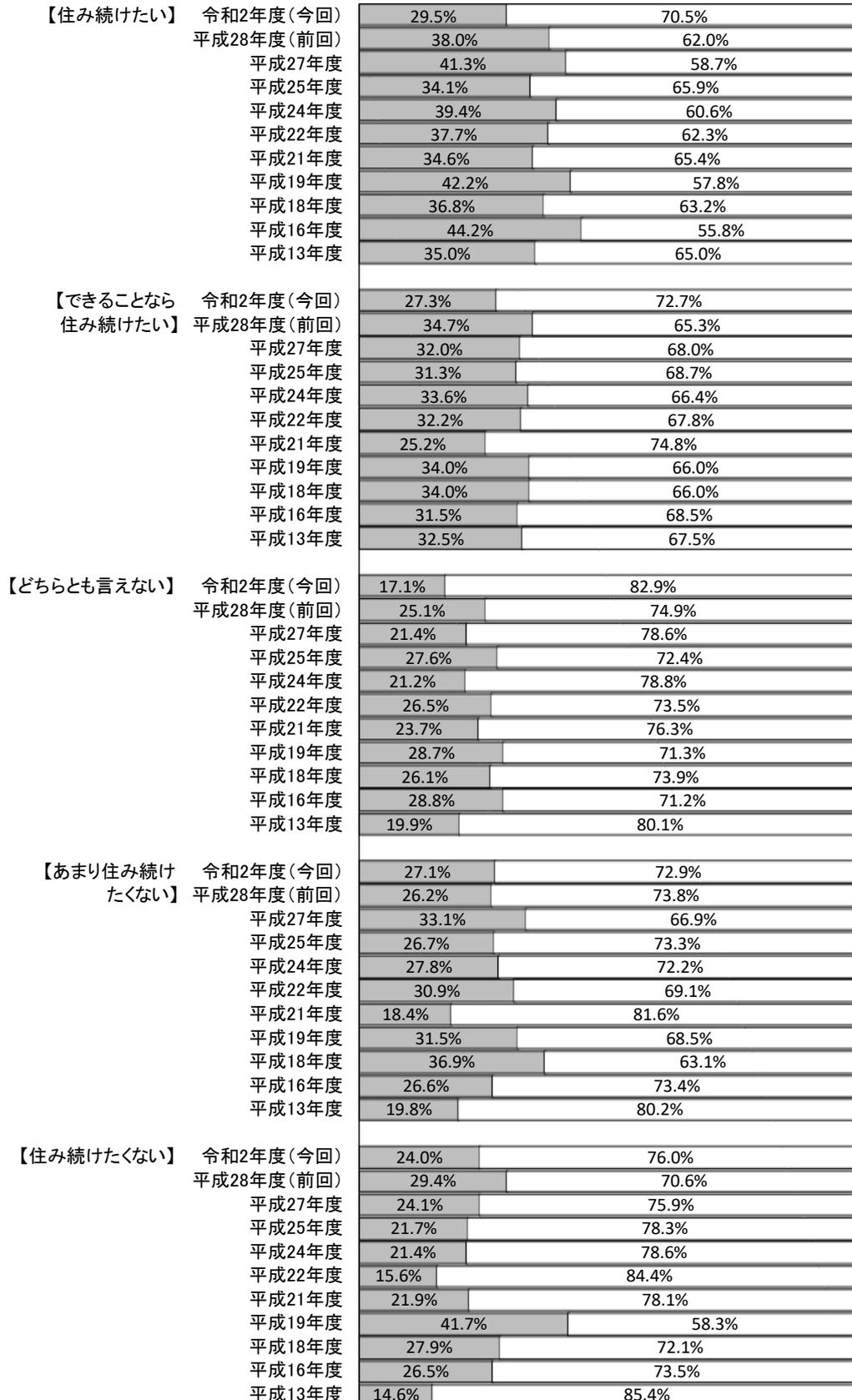


■「市民活動に参加している」の比率 □「積極的に参加しているものはない」の比率

<市民活動×定住意向別>

定住意向別でみると、「市民活動に参加している」は“住み続けたい”（29.5%）、“できることなら住み続けたい”（27.3%）と答えた方が、“あまり住み続けたくない”（27.1%）、“住み続けたくない”（24.0%）と答えた方より高くなっており、平成28年度調査と同様の傾向を示しています。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■「市民活動に参加している」の比率 □「積極的に参加しているものはない」の比率

## 第1節 連携型地域社会の形成

### 第2項 一人ひとりの人権が尊重される地域社会をつくります

めざしたい将来像：

松戸に住む全ての人々が互いに認め合い、多様な形でかかわりあえる「平等で人間性豊かな地域社会」を、自分たちで創り上げることをめざします。そのために、学習・交流など、様々な活動を心掛けます。

《指標》

身の回りで人権が守られていると思っている人の割合

#### (1) 指標の説明

差別や偏見などに代表される人権問題は、問題を他人ごととして捉えられがちな傾向や、被害にあった方々が声を出しにくい環境などから、その実態を正確なデータとして捉えることは難しい状況にあります。このことから、身の回りで人権が守られていると思っている人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「社会・態度（認知）」

Q1 あなたの身の回りでは人権が守られていると思いますか。次の中で、人権が守られていないと日頃感じることがあれば、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |            |              |             |
|------------|--------------|-------------|
| 1 女性の人権問題  | 4 障害者の人権問題   | 7 患者の人権問題   |
| 2 子どもの人権問題 | 5 同和問題       | 8 その他( )    |
| 3 高齢者の人権問題 | 6 外国籍市民の人権問題 | 9 人権問題は特にない |

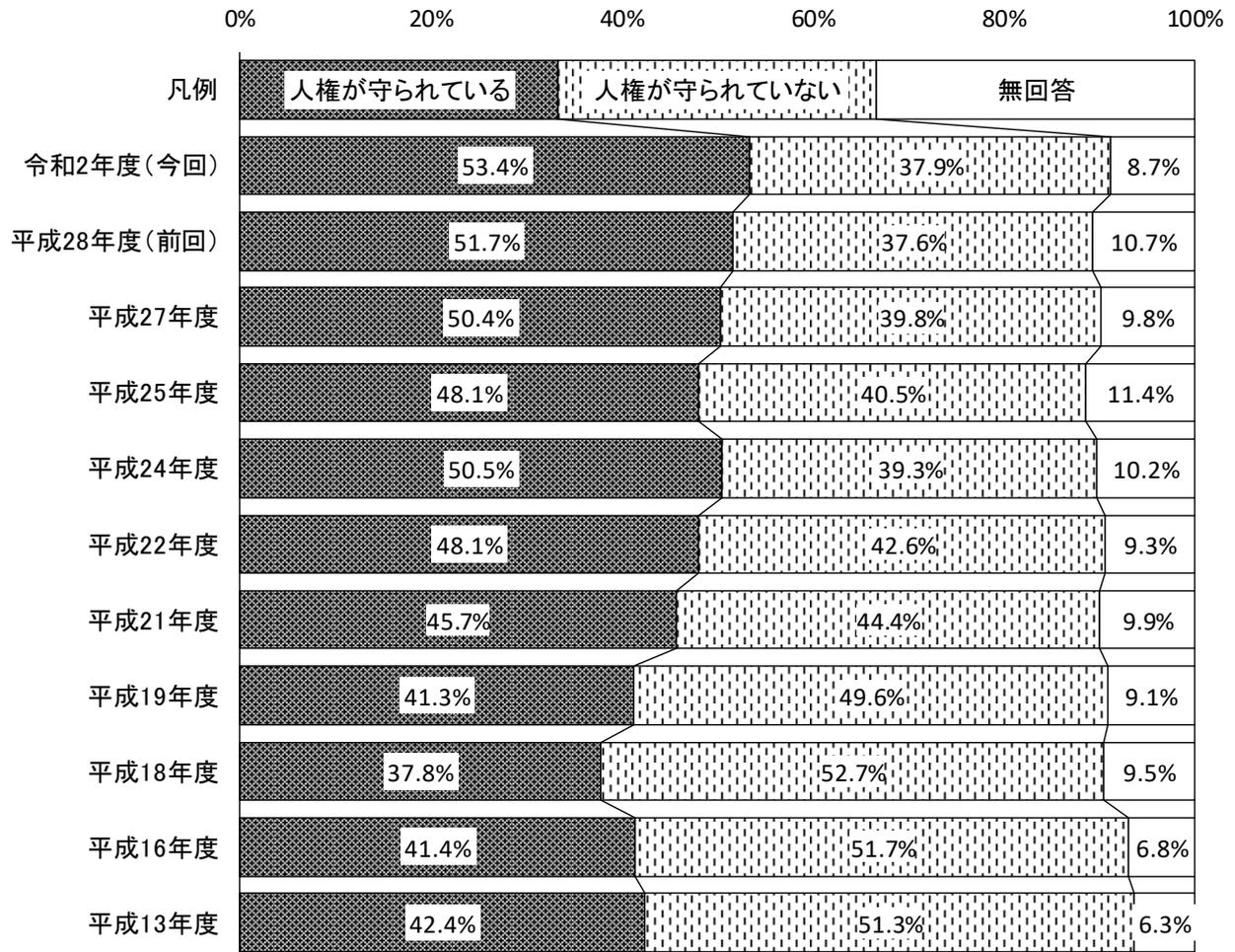
#### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
人権が守られている	42.4%	41.4%	37.8%	41.3%	45.7%	48.1%	50.5%	48.1%	50.4%	51.7%	53.4%

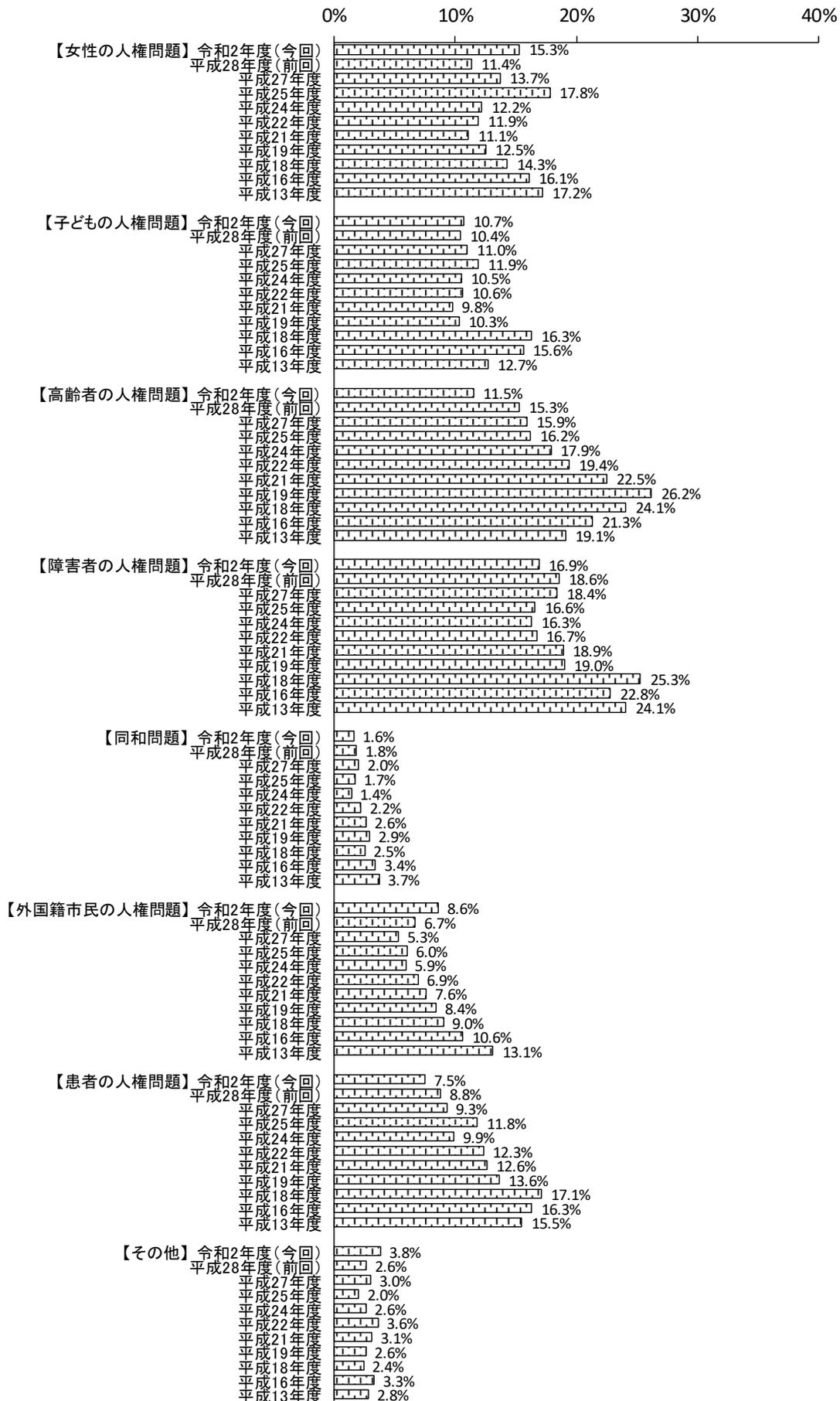
#### (4) 指標の分析

☆半数以上が人権が守られていると評価しており、平成25年度以降増加傾向を示しています

「人権が守られている」(53.4%)と答えた方は5割を超えており、平成13年度調査以降最も高い割合となっています。

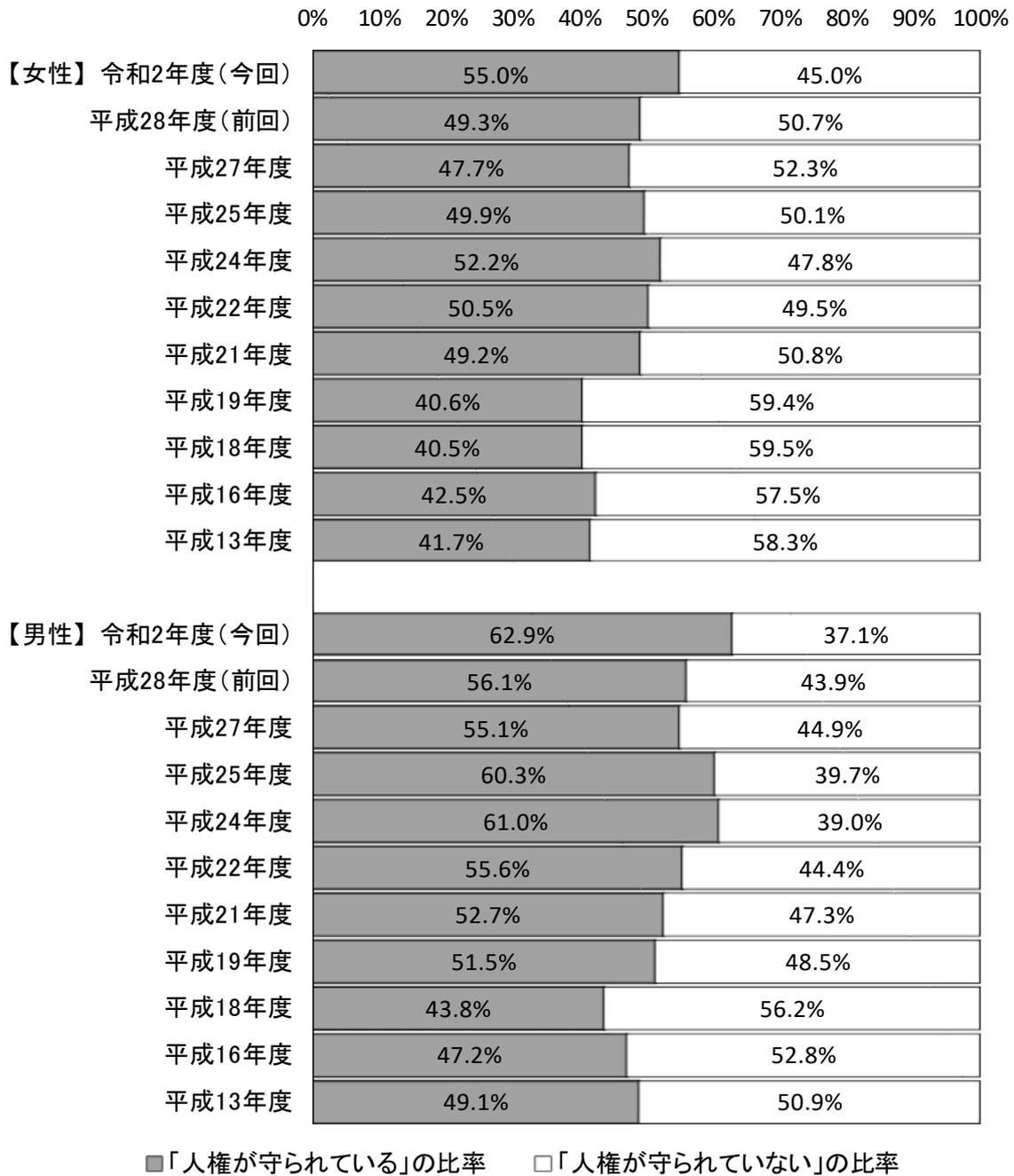


人権が守られていないと日頃感じることは、「障害者の人権問題」(16.9%)が最も高く、次いで「女性の人権問題」(15.3%)、「高齢者の人権問題」(11.5%)となっています。また、平成28年度調査と比べて、「女性の人権問題」は3.9ポイント増加し、「高齢者の人権問題」は3.8ポイント減少しています。



<人権問題×性別>

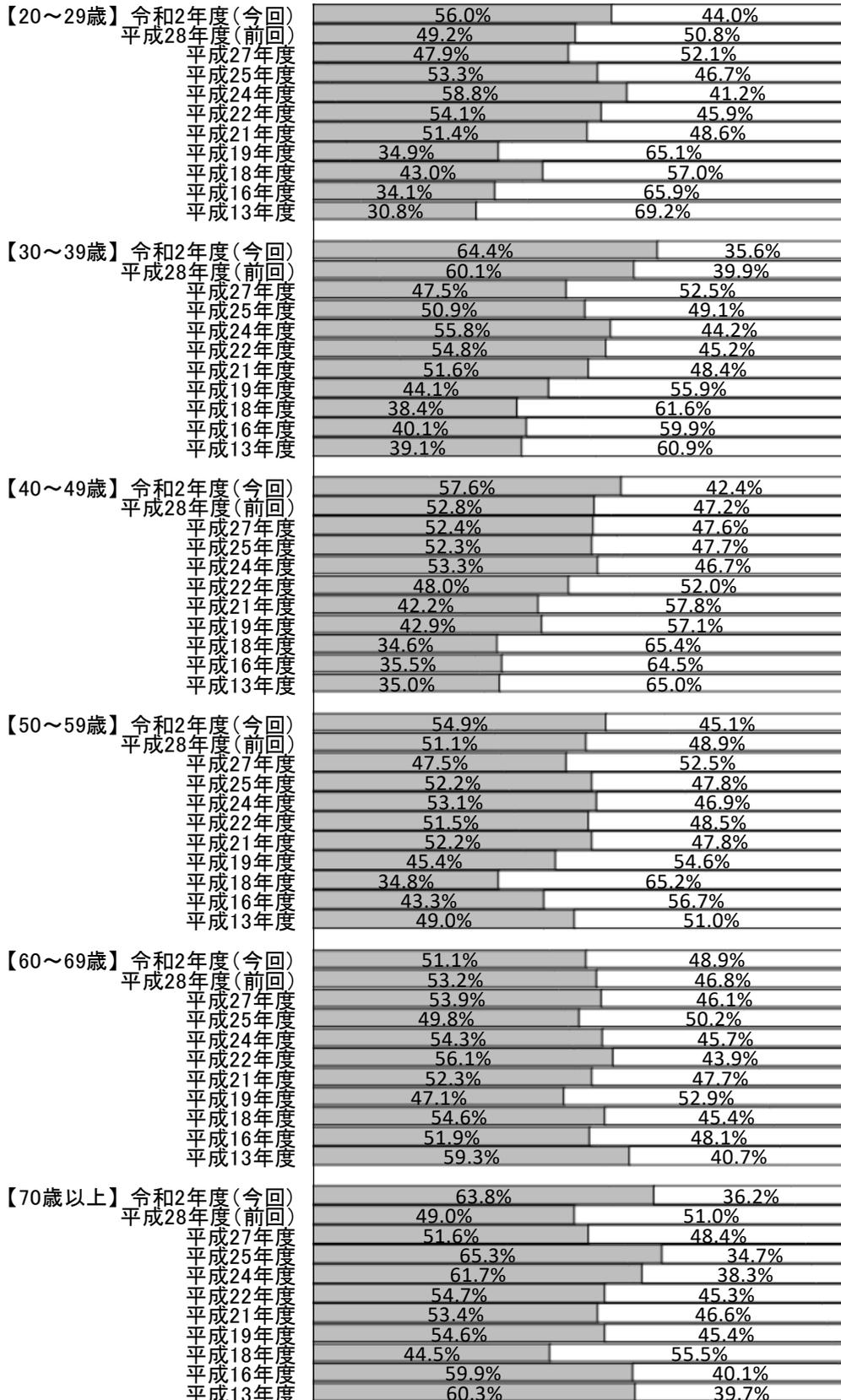
性別で見ると、「人権が守られている」は“男性”（62.9%）が“女性”（55.0%）より高くなっており、男女ともに平成13年度調査以降最も高い割合となっています。



<人権問題×年齢別>

年齢別でみると、「人権が守られている」は“30～39歳”（64.4%）で最も高く、次いで“70歳以上”（63.8%）となっています。また、“60～69歳”を除く全ての年代で「人権が守られている」は平成28年度調査と比べて増加しています。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■「人権が守られている」の比率 □「人権が守られていない」の比率

## 第1節 連携型地域社会の形成

### 第3項 男女共同参画の地域社会をつくります

めざしたい将来像：

男女がお互いに相手の人権を大切に思い、ともに責任を分かち合い、個性や能力をフルに発揮できるまちをめざします。それは、男女が対等なパートナーとして、いろいろな分野に参画できるまちです。

《指標》

固定的性別役割分担を支持しない人の割合

#### (1) 指標の説明

固定的な男女の役割意識が払拭されていくことで、家庭環境、社会環境が改善され、性別に係わらず役割が今以上に選択できるようになると考えられます。そこで、固定的性別役割分担を支持しない人の割合を指標とします。

#### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度（認知）」

Q2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感するほうですか、それとも同感しないほうですか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1 同感するほう    | 3 同感しないほう |
| 2 どちらともいえない | 4 わからない   |

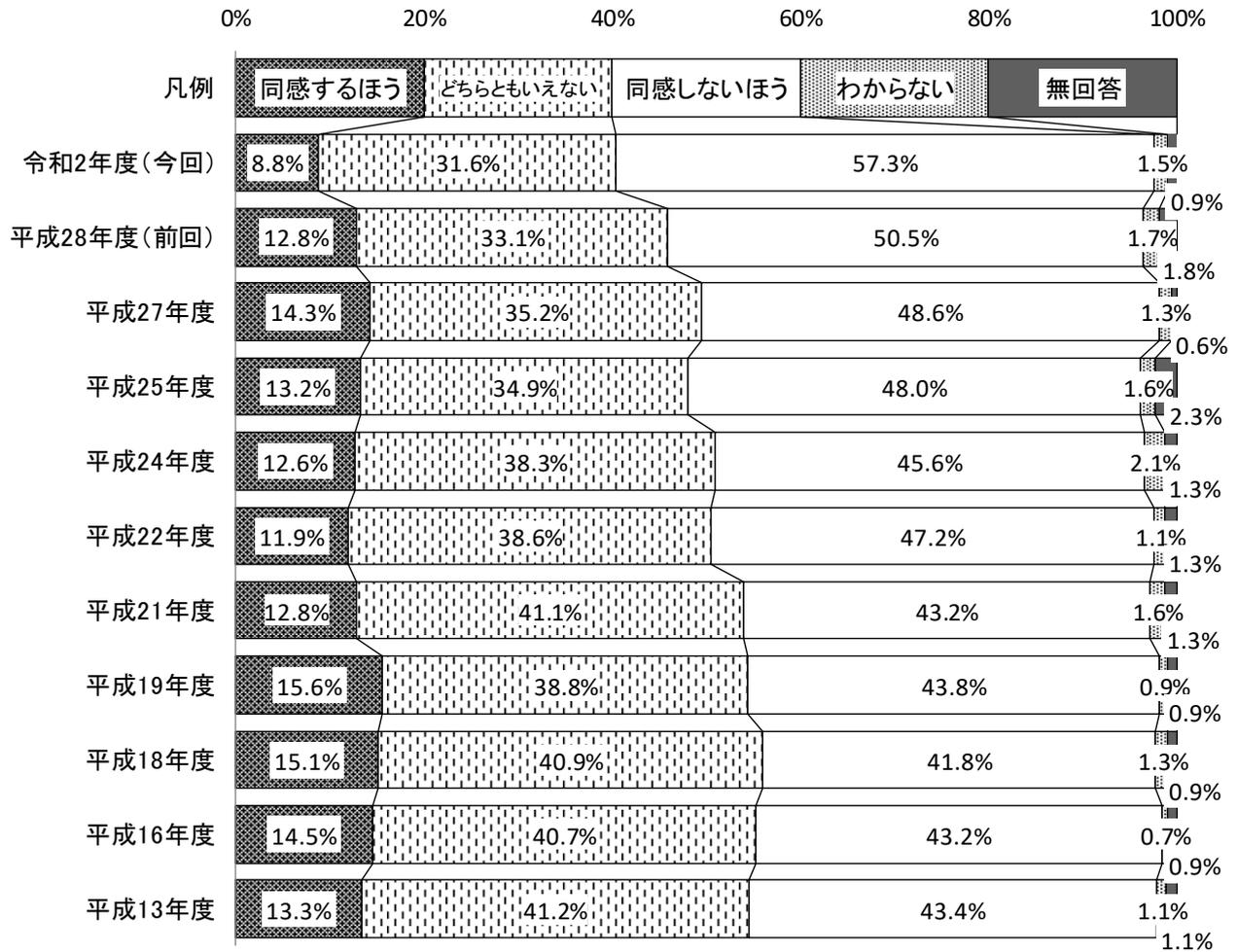
#### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
同感しないほう	43.4%	43.2%	41.8%	43.8%	43.2%	47.2%	45.6%	48.0%	48.6%	50.5%	57.3%

(4) 指標の分析

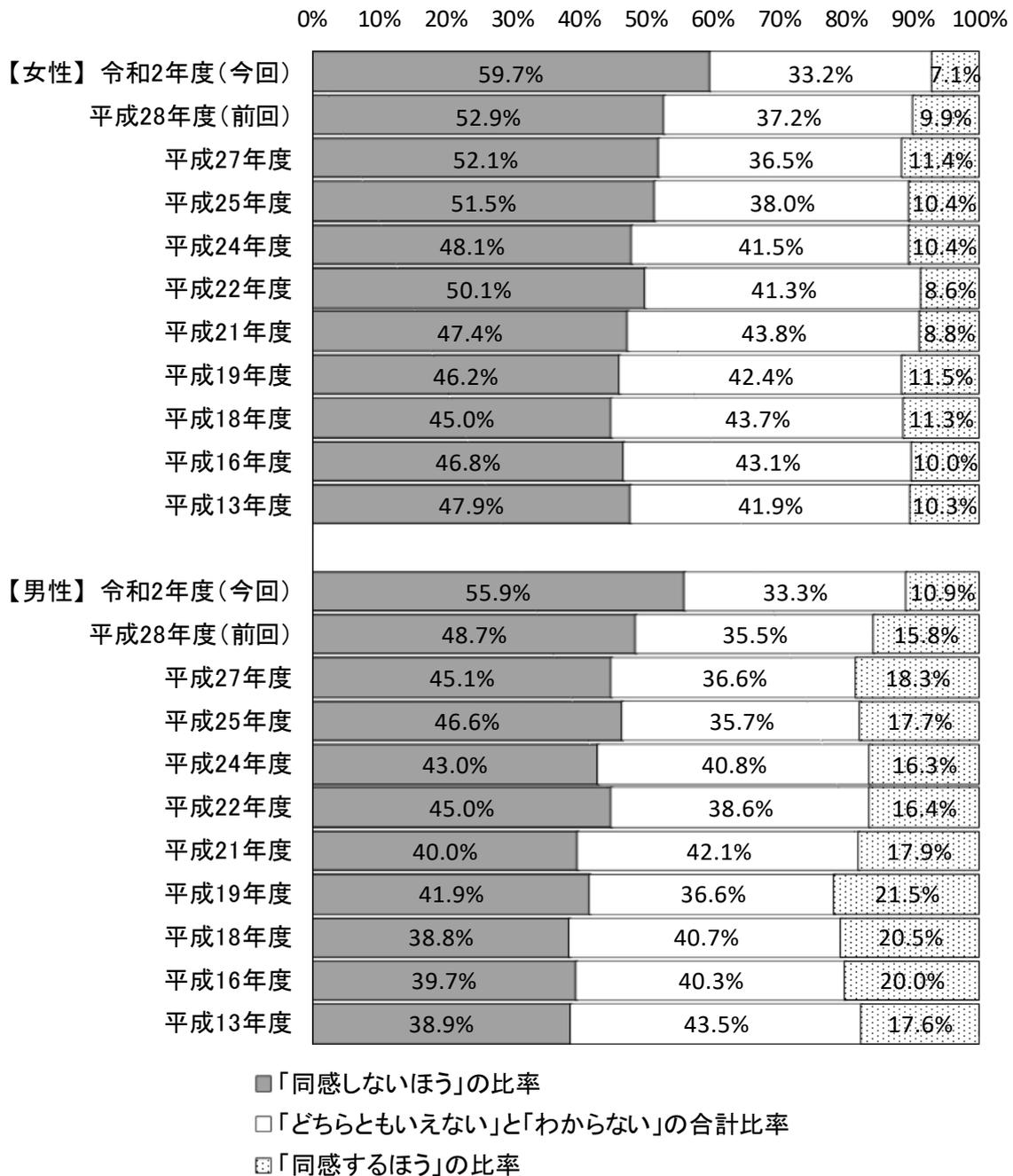
☆性別による役割固定を支持しない人は、平成24年度以降増加傾向を示しています

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しないほう」(57.3%)が「同感するほう」(8.8%)より大幅に高くなっています。また、「同感しないほう」は平成13年度調査以降最も高い割合となっています。



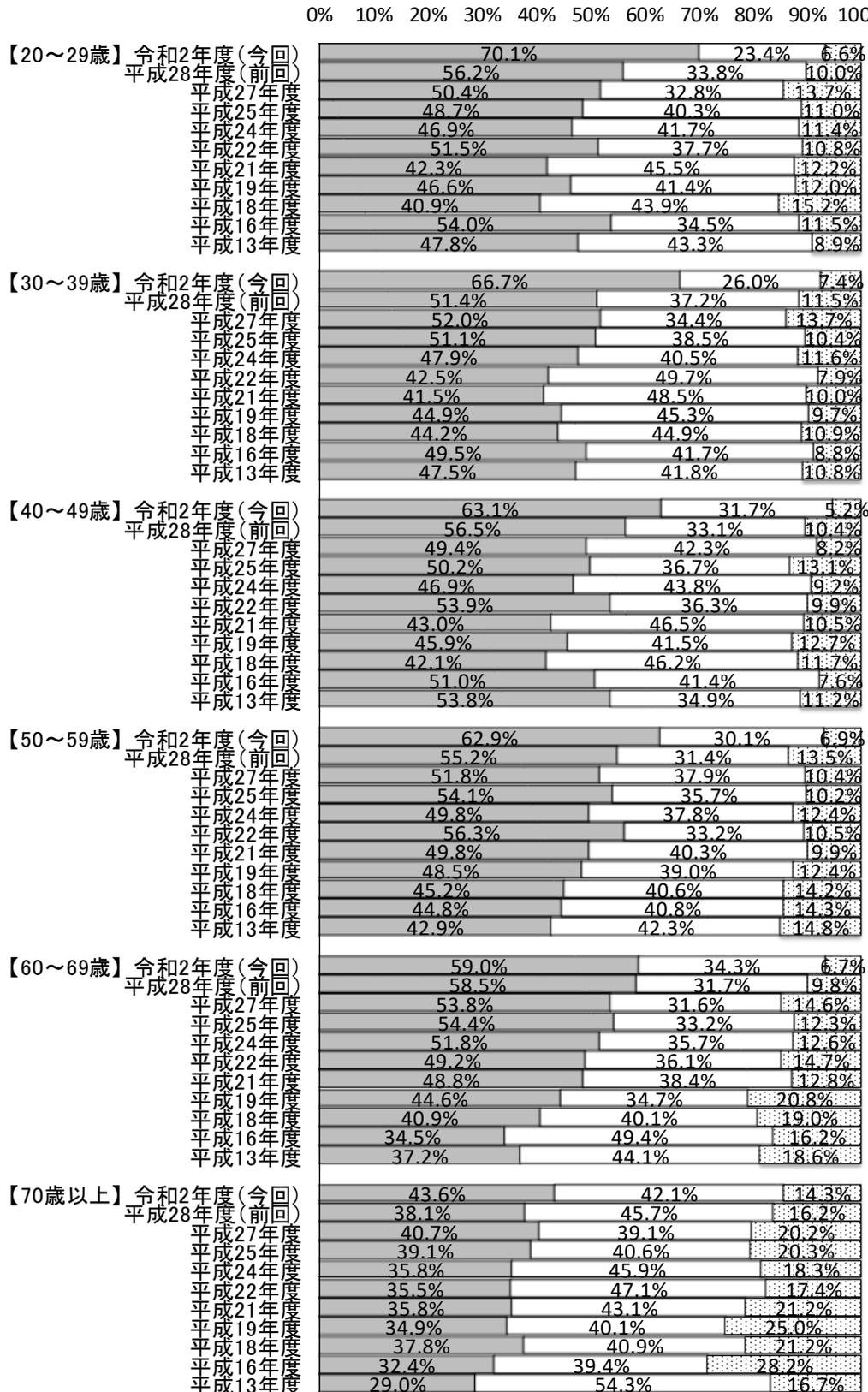
<性別による役割×性別>

性別で見ると、「同感しないほう」は“女性”（59.7%）が“男性”（55.9%）より高くなっており、平成28年度調査と比べて、女性では6.8ポイント、男性では7.2ポイント、それぞれ増加しています。



<性別による役割×年齢別>

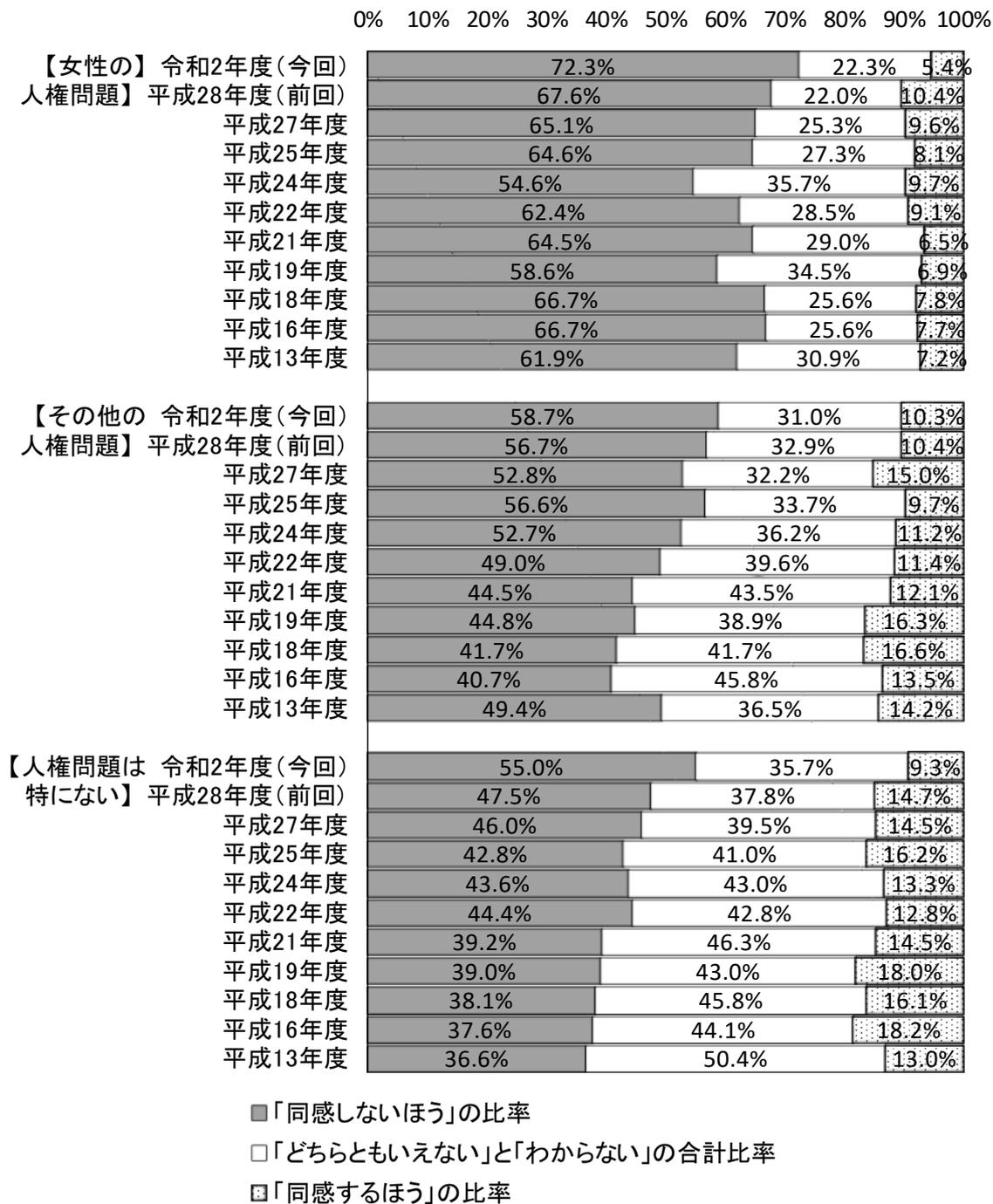
年齢別で見ると、「同感しないほう」は年代が下がるにつれて割合が高くなっており、「20～29歳」（70.1%）で最も高くなっています。また、全ての年代で「同感しないほう」は平成28年度調査と比べて増加しています。



- 「同感しないほう」の比率
- 「どちらともいえない」と「わからない」の合計比率
- ▨「同感するほう」の比率

<性別による役割×人権問題の認識別>

人権問題の認識別でみると、「同感しないほう」は“女性の人権問題が守られていない”(72.3%)と答えた方で最も高くなっており、平成28年度調査と同様に、男女共同参画に係る問題が、女性の人権と密接に結びついた問題として意識されていると考えられます。



《指標》

女性の就業割合

(1) 指標の説明

就労を希望する女性が働けるようになることで、男女が対等なパートナーとしてさまざまな分野に参画でき、能力を発揮できるまちになると考えられます。そこで、女性の就業割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。

F3 あなたの職業をお答えください。(1つに○)

- |                      |          |
|----------------------|----------|
| 1 会社員                | 5 学生     |
| 2 公務員(教員、団体職員などを含む。) | 6 その他( ) |
| 3 自営業(農業を含む。)        | 7 専業主婦   |
| 4 アルバイトやパートなどの臨時雇用   | 8 無職     |

(3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
働いている女性の 割合	50.3%	61.6%	61.9%	64.4%	69.4%	73.0%

#### (4) 指標の分析

##### ☆20～64歳の女性の就業割合は7割を超えています

全体では、女性の就業割合（73.0%）は7割を超えており、平成21年度調査以降増加傾向を示しています。年齢別でみると、女性の就業割合は「30～34歳」（83.6%）で最も高く、次いで「25～29歳」（82.2%）、「50～54歳」（80.6%）となっています。また、女性の就業割合は平成28年度調査と比べて、「35～39歳」で18.6ポイント、「20～24歳」で13.2ポイント、それぞれ増加しています。一方、「55～59歳」で8.3ポイント減少しています。

